



PROGRESS REPORT

Vol. 1 – 2025.10.25



ジャングリア沖縄、開業三ヶ月を迎えて。

2025年7月、沖縄の豊かな自然の中に「ジャングリア沖縄」は誕生しました。

開業から3ヶ月、お客様の声に耳を傾け、
地域の皆様と手を取り合いながら積み重ねてきた改善の歩み。

沖縄と共に成長する、私たちの最初の3ヶ月間の取り組みをご報告します。

より良い体験をお届けするために。

ジャングリア沖縄では、開業以来いただくお客様の声をすべての起点と考え、快適なパーク体験に向けた日々の改善を地道に積み重ねています。混雑緩和のための分析と対策の実行、沖縄の強い日差しや暑さに対応する環境整備など、一つひとつの課題に丁寧に向き合っています。

お客様の貴重な時間をより良いものにするための、この3ヶ月間の具体的な取り組みをご紹介します。



日々の来場動向の分析・検証 お客様の声を聴き、速やかな改善につなげる

ジャングリア沖縄が目指すのは、ご来場いただいたお客様一人ひとりの快適なパーク体験です。その実現のため、私たちは日々寄せられるお客様の「声」と、実際のパーク内の状況を、何よりも重要な指標としています。お客様が「どの時間帯に」「どの場所で」混雑や待ち時間をストレスに感じているかを正確に把握するため、時間帯別の入場者数やアトラクションの待ち時間推移などを詳細に確認しています。

データ以上に私たちが大切にしているのは、ゲストの皆様から直接いただく声です。お褒めの言葉はもちろん、時には厳しいご指摘やご意見も、すべてをパークの成長の糧として真摯に受け止め、毎日集約しています。

客観的なデータとおお客様の「生の声」を日々突き合わせることで、「今、何を改善すべきか」を判断し、アトラクションの運営方法やご案内の仕方を、早ければ翌日には見直す体制を整えています。

昨日より今日、今日より明日へと、少しでも快適にお過ごしいただけるよう、この地道な改善のサイクルを丁寧に積み重ねてまいります。



より快適なパーク体験のために。 ナビゲーターたちの習熟と工夫

アトラクションやショー、レストランなどをスムーズにお楽しみいただくためには、現場のナビゲーター（運営スタッフ）による円滑なご案内が欠かせません。開業から3ヶ月、私たちは実際にお客様がどのような動きをされ、どの手順でお困りになるかを現場で詳細に確認し、改善の起点としてまいりました。

例えば、当初はアトラクションごとをお願いしていたアプリでのご同意を一度で済むように簡略化。また、エクストリームエリアで時間がかかりがちだった安全ハーネスの装着も、ご説明の方法やご案内する順番を変更し、効率化を進めています。

こうした改善の実行には、ナビゲーター一人ひとりの習熟が不可欠です。熟達したスタッフが持つノウハウやお客様へのより良い対応をチームで共有し、学び合うことで、パーク全体のご案内レベルを引き上げる取り組みを進めています。開園前や閉園後の時間も使い、こうした改善点の練習を地道に積み重ねることで全体のレベルアップを図っています。

結果として、「ダイナソー サファリ」では開業当初に比べ同時間で約1.3倍*のお客様をご案内できるようになり、ご乗車を希望されるほぼすべての方（来場者の約95%）に体験をお届けできる体制が整ってきました。今後も安全を最優先に、お客様目線での改善を続けてまいります。

開業から3ヶ月、ジャングリア沖縄では、お客様の声を真摯に受け止め、アトラクション運営を中心に日々地道な改善を積み重ねてまいりました。安全な運航のための判断精度の向上、待ち列やご案内方法・手順の見直し、コースレイアウトの一部変更など、一つひとつの課題に丁寧に向き合い続けています。

こうした日々の改善の結果、例えば「ダイナソー サファリ」は開業当初に比べ1.3倍*、「スカイフェニックス」は1.4倍*2のお客様にご体験いただけるようになりました。また、「ダイナソー サファリ」では、待ち時間表示60分以内でご案内できる時間帯が、全体の9割*3を超えています。

多くのお客様に快適な体験をお届けするための、具体的な取り組み事例の一部をご紹介します。



「ダイナソー サファリ」は、開業から最も多くの改善を積み重ねてきたアトラクションの一つです。ハード面では、より多くの方にご乗車いただくためにビークルの乗車できる座席配置を見直したり、体験中の興奮を高めるために植栽の調整を行ったりといった改良を実施。

ソフト面でも、乗車時のご案内をより簡潔にしたり、迷わずシートベルトを装着できる手順に見直したりと、1秒でも早くご案内できる運営改善を追求しつづけ、直近はご乗車を希望されるほぼすべての方(来場者の約95%)に体験をお届けできる体制が整ってきています。



大自然の中を飛行する気球「ホライゾン バルーン」は、風速や雲、雷などの状況を常に見極めて運航しています。スコールなど天候の変化が激しい夏の開業当初は、運休が続く日もありました。そこで私たちは、運営方法や飛行判断の精度検証、お客様へのご案内方法の改善を地道に積み重ねてまいりました。

その結果、少しずつ運航できる時間帯が増加し、直近では1日300名以上の方に、空からの絶景をご体験いただく日も出てきています。



開業当初、一部の人気アトラクションに注目が集まり、実は待ち時間の短いショーやアトラクションなどがあるにもかかわらず、効率的で快適なパークの楽しみ方がゲストにお伝えできていない状況がありました。

課題に迅速に対応するため、案内サインなどを拡充させると同時に、快適な楽しみ方を提案するリーフレット(4か国語対応)を新たに作成。ご入場直後にお渡しする運用を開始しました。徐々にこのご案内が浸透し、集中が緩和することで多くの方がより充実した1日を楽しめる環境が整いつつあります。



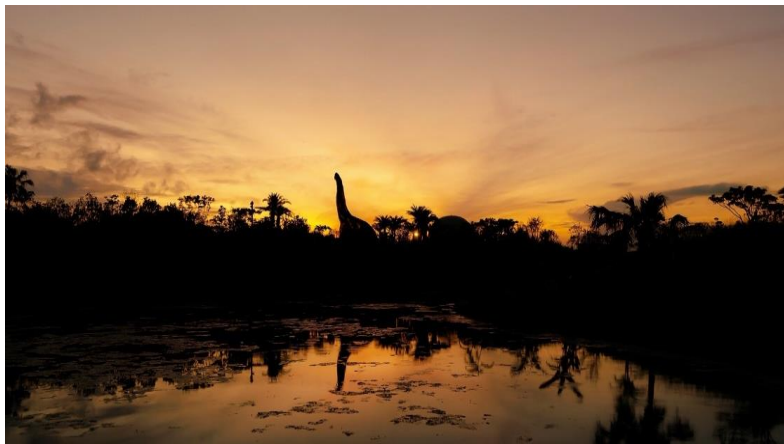
「バギー ボルテージ」では当初、初心者と上級者のコースが一部共通で、他方の出発を待つ状況がありました。また、現場のナビゲーターがボトルネックを分析し、1つひとつ検証してより効果的な対策を見極めました。

インストラクターを増員したり、コースレイアウトの一部変更まで行うほか、待ち列の並び方を見直し、乗車前の事前案内を一度に多くの方へお伝えできるよう改善。これにより、効率的な発車間隔・台数編成の見直しも可能となり、以前より多くの方をご案内できるような運用方法が実現できています。



「ジャングル エクストリームズ」では、安全ハーネス装着やアプリでの事前同意など、体験までに複数の手順が必要なエリアでした。そこで、体験同意をアプリで一括化したり、ハーネスの装着場所での案内方法を変更したり、装着時の混雑緩和と待ち時間の削減を進めています。また、屋外での体験時間が長くなるアトラクションでは、暑さの特に厳しい時期には体験後にドリンクをお渡しする施策を行うなど、暑さの中でも快適に大自然を楽しんでいただけるよう複合的な改善を重ねています。これらの結果、一日あたりにご体験いただけるお客様の総数が増加。整理券の配布枚数も徐々に拡大することが可能となっています。

*開業当初(8/11-24)と直近(10/6-19)において、稼働可能なジープ台数などによる体験可能人数の比較
*2開業当初(8/11-24)と直近(10/6-19)において、ご案内間隔の短縮などによる体験人数の比較
*3 9/1-30の日中(10-17時)において、90%超の時間帯で60分以内の待ち時間表示でご案内しておりました



混雑を緩和し、楽しみ方を広げる。 「午後チケット」の早期導入

開業直後、お客様のご来場がパークオープン直後の時間帯に集中し、一部アトラクションで待ち時間が大幅に長くなることが、私たちにとっての喫緊の課題でした。この状況を受け、私たちは直ちに改善に着手し、開業から間もない8月中旬には、新たな選択肢として、午後から入場できるチケットの販売を開始しました。

この「午後チケット」は、まず何よりも混雑が集中する時間帯を分散してご来場いただくことで、待ち時間などのご不便を迅速に改善したいとの思いがあり、そのうえで、暑さが和らぎ、沖縄の豊かな自然の中でゆったりとしたリゾート時間を過ごしていただくという、快適なパーク体験の選択肢をご提供したいという思いも込められています。

実際に、午後からのご来場は、夕方にかけて待ち時間が緩和されるアトラクションや、午後集中開催するストリートショー、絶景のスパなどを組み合わせることで、半日のご滞在でも充実した時間をお過ごしいただけます。

施策の結果として、朝の時間帯の混雑が緩和されると同時に、お客様に新たな楽しみ方をご提案できる状況が生まれつつあります。



新たな体験の選択肢を続々導入。 チームの絆を深める「トレジャー ファイト」

お客様のパークでの楽しみ方をさらに広げ、より快適に体験をご提供するため、私たちは開業後も迅速に改善を進め、8月中旬に新アトラクション「トレジャーファイト」を導入しました。これは、宝探しとシューティングゲームを融合させたアクティブなアトラクションで、6歳以上のお子様から大人の方まで、身長や体重の制限なくご参加いただけます。

沖縄の自然の地形を生かしたフィールドで、ご家族やご友人とチームで作戦を考え、一緒に宝を探すこの体験は、グループの「絆」が深まる、思い出に残る時間をご提供したいという思いから生まれました。

この新しい体験の選択肢が加わったことで、お客様の楽しみ方が多様化し、結果としてパーク全体の混雑分散や、他のアトラクションの待ち時間短縮にも良い影響をもたらしています。今後もお客様の満足度向上のため、アトラクション体験の拡充も含めてハード・ソフト両面での充実を進めていきます。



「待ち列解放サービス」で 待ち時間を、自由に楽しい時間に。

開業当初、一部の人気アトラクションにおいて待ち時間が長くなる場面があり、お客様の貴重な体験機会をより多く確保することが課題の一つでした。そこで日々の運営改善を積み重ねた結果、現在では待ち時間は緩和傾向にあります。例えば人気アトラクション「ダイナソー サファリ」では、待ち時間表示が60分以内に収まる時間帯が全体の約9割超*となり、開業当初より快適にお楽しみいただける状況が生まれています。

さらに、アトラクションが一時的に混み合い待ち時間が長くなった場合でも、お客様のご負担を少しでも軽減し、パークで過ごす貴重な時間を有効にお使いいただけるよう「待ち列解放サービス」を導入しています。これは、アトラクション入口で受付を済ませていただければ、一度待ち列を離れて自由にお過ごしいただける仕組みです。

指定された時間にお戻りいただければ、残りの時間をお待ちいただくだけでアトラクションを体験できます。空いた時間でショーのご鑑賞、お食事、写真スポットの散策など、パークをめいっぱい満喫していただくための試みです。

*9/1-30の日中(10-17時)において、
90%超の時間帯で60分以内の待ち時間表示でご案内しておりました



快適なパーク体験のために。 日差しと向き合う「日傘の無料レンタル」

ジャングリア沖縄では、沖縄の豊かな空や大自然を全身で感じていただくことを大切にしており、パーク内の設計においてもその開放感を重視しています。一方で、夏の沖縄は南国特有の強い日差しが降り注ぎます。特にアトラクションの待ち時間などでお客様が日差しを浴び、快適性を損ねてしまうことは、私たちが向き合うべき重要な課題でした。

スピーディな解決のため、大規模な屋根や冷房設備等を一齐に導入するのではなく、まずはお客様の不快感を直接和らげるために、私たちは「日傘の無料レンタル」を開始しました。パーク全体で3,000本以上の日傘をご用意し、入園ゲート付近やパーク内各所で無料で貸し出し、どなたでもご自由に手に取り、お好きな場所でご返却いただける運用としています。

この日傘は、日差しを遮るだけでなく、沖縄特有の急なスコール(通り雨)の際の雨除けとしても機能し、多くのお客様にご利用いただいています。



楽しさの中で、確実な水分補給を。 給水・塩分補給のサポート

暑さ対策の基本である水分補給を、お客様がいつでも手軽に行えるよう、パーク内7箇所に給水スポットを設置しています。ペットボトルや水筒をお持ちのお客様が自由に水分を補充できるなど、こまめな水分補給の機会を確保しています。

この給水スポットは、もう一つの役割も担っています。パーク内で開催している2つのウォーターショーでは、ゲストの皆様がウォーターシューター(水鉄砲)を使い、頭から足先までびしょ濡れになって楽しめます。この給水スポットは、そのシューターへの水分補充拠点でもあります。ウォーターキャノンによる放水など、夏の暑さを忘れて大はしゃぎできるこのショーは、エンターテインメントであると同時に、楽しみながら「涼」を取る暑さ対策としても機能し、ご好評をいただいています。

また、水分補給と同時に重要な塩分補給のため、夏休みなど暑さの厳しい時期には各フードカートなどで無料の塩分タブレット配布も実施しました。



ミストやパラソル、冷房の効いた休憩スペース 涼しさと休息をお届けする取り組み

日傘の無料配布に加え、お客様が少しでも涼しく、快適にパーク内でお過ごしいただけるよう、物理的な環境整備も地道に進めています。

日差しを浴びやすいアトラクションの待ち列や通路には、細かなミスト(霧)を噴霧する設備を増強し、体感的な涼しさを感じていただけるよう努めています。また、日陰でゆっくりと休憩していただけるよう、パーク内には250台以上のパラソル付きベンチを設置し、日差しを避けて休める場所の確保を進めました。さらに、パーク散策の途中で「ほっと一息、涼みたい」と感じられた時には、冷房の効いた専用の休憩スポット「クイッククールステーション」をパーク内に3箇所ご用意しています。

これらの設備は多くのお客様にご利用いただいております。日傘の配布をはじめとする様々な対策を複合的に行うことで、開業から現在まで、重篤な熱中症の事象は発生しておりません。今後も安心・安全なパーク運営のため、細やかな対策を続けてまいります。

地域とともに歩む。

ジャングリア沖縄は、沖縄の地域社会の良き一員でありたいと考えています。地元企業や皆様と一体となって生まれた成り立ちを大切に、開発においては環境負荷の低減に配慮しました。

開業時の渋滞を起こさない対策や、100回以上重ねた住民の皆様との「ゆんたく」（対話）、地元産品を盛り上げるための連携など、あらゆる面で地域との共生を目指しています。

沖縄の皆様と共に歩み、発展していくことが私たちの願いです。



沖縄の皆様とともに。 地域に根差し、共に歩むテーマパーク

ジャングリア沖縄は、沖縄の皆様と共に、この地の持つ素晴らしい可能性を未来につなげていきたいという強い思いから生まれました。私たちは、事業構想の段階から「沖縄に根差した企業であること」を第一に考えてまいりました。

運営会社である「ジャパンエンターテインメント」は本社を名護市に置き、株主の約7割を、沖縄県内の企業（企業数ベース）が占めています。長年にわたり沖縄経済を牽引されてきた企業の皆様、そして地元の金融機関とも力を合わせ、事業を開始しました。

私たちが着目したのは、世界自然遺産「やんばるの森」を有する、沖縄北部の豊かな自然でした。これまで観光客の流れが南部エリアに集中しがちで、この地が持つ素晴らしい可能性を、さらに引き出していくことが地域共通の課題でもありました。

私たちは、この素晴らしい「大自然」そのものを体験価値の核とすることで、新たな人の流れを生み出し、地域全体の活性化に貢献できるのではないかと考えました。この開発は、沖縄県や名護市、本部町、今帰仁村をはじめとする地元自治体の皆様との綿密な対話と連携なくしては実現できませんでした。沖縄で生まれた価値が、再び沖縄の発展に還元されていく仕組みを大切に、これからも地域の皆様と真摯に向き合い、共に歩んでまいります。



沖縄の豊かな自然とともに。 環境に配慮した持続可能なパーク開発

ジャングリア沖縄のパーク開発において、最も大切にしたい理念の一つが「環境負荷の最小化」です。大規模な造成や山の切り拓きを行うのではなく、もともとゴルフ場であった土地の形状を最大限活かすことを選択しました。

開発にあたっては、まずその土地にもともと生えていた約500本もの大きな木々を丁寧に調査し、ジャングリア沖縄の象徴として活かすために大切に移植・保全する作業から始めました。特にパークの中央で皆様をお迎えする樹齢約100年のガジュマルは、その巨大な枝ぶりや力強い存在感が訪れる多くの方々の目を引いています。

また、「ジャングル エクストリームズ」エリアの深い谷は、あえて手つかずの自然を残し、雄大な自然をそのまま体験として感じていただけるよう設計しています。これらに加え、沖縄を象徴するデイゴやヘゴ、ヤエヤマヤシなどを中心に、沖縄各地の造園企業の皆様に協力をいただき3万本から4万本近い樹木を植樹し、沖縄ならではの多様な植生の景観を創り出しています。地元の方々にとっては身近な植物も、空間デザインや視線の誘導を工夫することで、その魅力が改めて伝わるよう工夫しました。

環境への配慮と、お客様の感動体験を両立させること。それが私たちの持続可能なパーク運営の基盤であると考えています。



地域の「日常」を守るために。 徹底した渋滞対策とパートナーとの連携

沖縄の移動手段は車が中心であり、大規模集客施設の開業によって交通渋滞が発生するのではないかという点は、地元住民の皆様への日常生活に対する大きな懸念事項でした。私たちはそのご不安の声を真摯に受け止め、地域の皆様にご負担をおかけしないことを最重要課題の一つとして準備を進めてまいりました。

まず、パーク周辺の主要道路や交差点の交通量を徹底的に調査・分析し、ボトルネックとなり得る箇所を事前に特定しました。その上で、周辺の外部駐車場と連携して駐車場所を分散させ、そこからシャトルバスでご案内する仕組みを構築。同時に、マイカー以外の選択肢を増やすため、那覇市内からの専用直行バスの運行や、既存の高速バスとの接続、美ら海水族館や周辺ホテルからの直通バスの新設などを、地域の交通事業者の皆様と協力し、整備いたしました。迂回路のご案内など情報の周知も徹底しています。

これらの地道な準備と連携の結果、開業から3ヶ月、地元住民の皆様への生活に影響を及ぼすような目立った交通渋滞は発生しておりません。今後多くの方がお越しいただく時期も想定した、追加のアクションも検討を進めています。



地域コミュニティの一員として。 地域の皆様との多様な連携

ジャングリア沖縄は、地域社会の良き一員であるために、地元の伝統的な行事への参加や、地域との日常的な交流を大切にしています。

2025年9月末に今帰仁村で開催された「今帰仁ハーリー大会」では、地元・今帰仁村出身のスタッフを含む多くのメンバーが船に乗りレースに参加しました。アトラクション「ファインディング ダイナソーズ」で活躍するスタッフが選手宣誓を務める場面もあり、地域の皆様と汗を流し、交流を深める貴重な機会となりました。また、9月中旬には名護市の中心市街地にて、地域への感謝と貢献を目的としたイベントを開催。パークのスタッフが地元の商店街や飲食店を訪れ、地域の皆様と触れ合い、ささやかながら地域経済にも貢献できることを目指しました。

地元の伝統とも共存することは、このテーマパークにとって大切な要素だと考えています。パークの開業を祝して、旧盆の最終日「ウークイ」には、地元の青年会よりお申し出をいただき、パークのエントランスで伝統的なエイサーと獅子舞や棒術などをご披露いただきました。

さらにこういった地域の一員としての活動が深まり、ジャングリア沖縄が地域の誇りとして根差していきたいと考えています。



「ゆんたく」の精神で。 地域住民の皆様と重ねた100回以上の対話

ジャングリア沖縄の開発は、沖縄(特に北部の今帰仁村、名護市、本部町)の自治体の皆様だけでなく、そこにお住まいの皆様との「語り合い」を何よりも大切にしてい進めてまいりました。開業前から、私たちは地元の公民館などをお借りし、累計100回以上にわたる説明会や講演会を開催しました。そこでは、CEOをはじめとする経営メンバーが直接皆様と膝を突き合わせ、沖縄の「ゆんたく」(一緒に話して話す)の精神で、さまざまなご意見や、気になる点、ご不安に思うことに耳を傾ける場を重ねてきました。

当初は、「自然への影響はないか」「渋滞などが起こらないのか」といったご心配の声もいただきましたが、私たちの事業が地元の素晴らしい自然や産品と共に歩んでいくものであることを丁寧に伝え、対話を続けてまいりました。

開業後、皆様が心配されていた大きな渋滞も起きておらず、安堵の声をいただくとともに、パークがこの地域を元気にし、新しい働き場所が生まれることへの強い期待も寄せられています。開業後に新たに見えてきた課題にも、引き続き皆様と「一緒に悩み、一緒に考える」という姿勢で、対話を続け一緒にこのパークを大きく育てていきます。



地域の恵みを、新たな体験価値へ。 レストランやグッズで地元産品と積極協業

ジャングリア沖縄のレストランやグッズ体験は、地元の豊かな「食」の魅力そのものです。県内の漁港から水揚げされる新鮮なマグロやセイイカ、沖縄の太陽を浴びたパイナップル、地元で愛される今帰仁すいかなど、近隣の素晴らしい食材をふんだんに使用しています。これは、沖縄への「旅」の醍醐味である「その土地の美味しさ」を存分に味わっていただきたいという思いと同時に、パークでの体験が地元の生産者の皆様への還元につながる、持続可能な関係を目指しているためです。

開業にあたり、沖縄県内事業者および県産品を取り扱う事業者、併せて74社の事業者の皆様と連携し、レストランメニューの約7割にこれらの県産食材を使用しています。私たちが大切にしているのは、地元との共存です。「沖縄そば」のような定番の郷土料理は、あえてそのままの形ではパーク内では提供しておりません。それらは地域に根差した専門店の味であり、パークでは地元の素晴らしい食材を「南国リゾート」ならではの、心躍る美味しい体験へと昇華させることに注力しています。

この取り組みをさらに拡大するため、10月には地元商工会議所とも連携し、本部町で「商品説明会」を開催し、次年度以降の商品開発において関心を寄せていただいた約300社400名以上の方にご参加いただき新商品の開発を開始するなど、開業後の連携活動も進んでいます。



事例：県産パイナップルから定番ちんすこうまで。 沖縄の皆様の手で生み出された商品開発

ジャングリア沖縄では、パークでの体験を彩るカートフードやお土産においても、沖縄の事業者や生産者の皆様との連携を大切にしています。例えば、沖縄ならではの南国感を味わっていただくため、宜野湾市のフルーツ加工業者（写真）と協力。県産の完熟パイナップルを、そのジューシーさやビタミンを損なわないようフローズンにし、季節にかかわらず手軽にお楽しみいただける形でご提供しています。ほかにも、シークワサーを使ったフローズンドリンクや料理につかうフレッシュな果実ソースなど、様々な県内の事業者、生産者と協力し、沖縄の豊かな果実の恵みを活かしています。

また、沖縄への「旅」の体験において、その土地の魅力を感じられるお土産は非常に大切な要素です。旅の思い出となるお土産においても、たとえば沖縄土産の定番である「ちんすこう」を糸満市の有名メーカーと共同製作したことをはじめ、パークで取り扱う商品の多くを、沖縄県内の製造業者の皆様と共に企画・開発しています。

沖縄の皆様の手によって生み出された素晴らしい産品を、全国からお越しになる多くのご来場者様へとお届けする「場」となること。それも、地域に根差す私たちの大切な役割であると考えています。



事例：北大東島の恵み「月桃」をスパで。 沖縄の香りと地元企業との連携

ジャングリア沖縄に併設する「スパ ジャングリア」では、アメニティの一つひとつにも、沖縄の自然の恵みを活かす取り組みを行っています。特にこだわったのが、沖縄の離島・北大東島の「月桃（ゲットウ）」という植物です。月桃は、「ムーチー」（餅）を包む葉として地元では古くから親しまれていますが、その柔らかい香りの魅力は、観光で訪れる方々の接点として、まだまだ知られていないところもありました。

私たちは、この素晴らしい香りをじっくりと味わい、リラックスしていただく体験こそが、ジャングリア沖縄ならではの贅沢だと考えました。北大東島から約数十トンもの月桃をいただき抽出した精油を活用し、シャンプー、コンディショナーから化粧品、乳液に至るまで、スパ ジャングリアオリジナルのアメニティを開発。浴室でも湯上がりのパウダールームでも、人工香料や他の自然由来のものを一切加味しない純粋な月桃の優しい香りに包まれるひとときをご提供し、魅力を文字通り肌で感じていただく体験を作っています。

さらに、パークと同じ今帰仁村に拠点を置く化粧品メーカーとも連携し、爽やかなハイビスカスの香りのアメニティもご用意しています。地元の資源や企業の皆様と手を取り合い、ここできれい味えない体験価値を創り出しています。

沖縄の未来を担う 「人」と共に。

パークでの最高の体験は、素晴らしい「人」の力によって生まれます。約1,300名のメンバーの多くを沖縄出身者や在住者が占め、その温かなホスピタリティがパークの魅力の源泉となっています。Uターンや新卒の受け皿となるだけでなく、大学などと連携した「高度観光人材」の育成にも着手しています。

沖縄の地で、誇りを持って働き、成長できる環境づくりに貢献してまいります。



「地元で働きたい」を叶える。 1,300名の仲間と沖縄で育む、誇りと未来

テーマパークでの最高の体験は、素晴らしい施設やアトラクションと、そこで働く「人」の力が合わさって生まれると、私たちは考えています。ジャングリア沖縄の開業にあたり、約1,300名のスタッフを直接雇用としてお迎えしました。その多くは沖縄県出身者、あるいは沖縄に移り住んで働くメンバーです。

沖縄の皆さんが持つ温かなホスピタリティや明るさは、パークで過ごすお客様のリゾート体験を、より豊かで心地よいものにしています。実際にご来場いただいたお客様への調査でも、この「スタッフのホスピタリティ」は大変高い評価をいただいております。

これまで沖縄北部では、大学卒業後に活躍の場を求めて県外へ移る若者も少なくありませんでした。しかし今回、この沖縄の魅力が活かせる職場が生まれたことで、地元に戻る「Uターン」や、地元で就職する「新卒」のメンバーも多く活躍しており、その受け皿にもなっています。さらに、エンターテインメントや事業運営の最前線をこの地で学びたいと、県外から沖縄に拠点を移してくれた仲間もいます。高いスキルを持つダンサーやパフォーマーなども、この新しい挑戦の場を選んで集まってくれました。

私たちは、この多様なメンバーと共に、沖縄の地に根差し、地域の皆様の誇りとなるような事業へと成長させてまいります。



学びと実践の場を、沖縄の地から。 日本の観光産業を担う人材育成へ

日本の観光産業がさらに発展するためには、そこで働く人々が高度な専門性を身に付け、その価値が正当に評価される環境が必要であると私たちは考えています。海外では、観光・エンターテインメント産業は、地域経済を牽引する専門性の高い分野として育成・活躍の場が整っている地域もあり、沖縄が日本におけるその先駆けになることができないか、チャレンジを続けています。

ジャングリア沖縄に、エンターテインメントの最前線を学びに入社してきた社員はもちろんのこと、さらに広く「実践的な学びと実践の場」を提供するため、地元のホテルや水族館といった観光事業者の皆様、そして地元沖縄北部の名桜大学や立命館アジア太平洋大学(APU)などの教育機関と連携協定を結び、「産学連携」での人材育成プログラムも開始しています。すでにインターンシップの学生を受け入れており、沖縄という「観光を学ぶ最適な現場」で、実践を通じて地域の価値をお客様の体験価値に変えていく過程を学んでいただいています。目指すのは、沖縄だけに留まらず、将来的に日本の観光課題を解決できる「高度観光人材」の育成です。

このビジョンを実現するため、国や自治体とも連携し、2026年には研修や宿泊が可能な専用の拠点施設を開設する準備も進めています。この地から、日本の観光産業の未来を担う人材が育っていくことを願っています。



株式会社ジャパンエンターテイメント

2025年10月25日